

展覧会情報

佐竹家所蔵 古地図展

会場 千秋文庫

電話03-3261-0075

期間 8月31日(月)～12月12日(土)

古地図で眺める朝鮮半島

嶺南大学校所蔵地図コレクションによる

会場 早稲田大学會津八一記念博物館

電話03-5286-3835

期間 11月24日(火)～12月19日(土)

絵図にみる津軽・弘前

会場 弘前市立博物館

電話0172-35-0700

期間 10月31日(土)～12月20日(日)

第15回児童生徒地図作品展

会場 岐阜県図書館世界分布図センター

電話058-275-5111

期間 10月31日(土)～12月24日(木)

～タイムスリップ～ 城下町 萩のひみつ

会場 萩博物館

電話0838-25-6447

期間 11月28日(土)～1月28日(木)

松尾城 川一市内遺存資料一

会場 山武市歴史民俗資料館

電話0475-82-2842

期間 11月7日(土)～3月28日(日)

大切なお知らせ

メールサーバ移転に伴い、(財)地図情報センターのメールアドレスが変更になります。新アドレスは未定で

すが現在のchizujoho@nifty.comは不通となります(12月中旬)。移行措置として当分の間chizujoho@gmail.comを運用致しますので、こちらをご利用下さい。

なお、ホームページURLの変更はありません。

mini地図NEWS

実は名古屋と福島には食べ物について不思議な共通点があるらしいんだ。

「共通点って何ですか？」

それは・・・冷やし中華にマヨネーズをつけるか？つけないか？という設問でつけるという答えが圧倒的に多いのが全国の中でこの中京圏、そして福島、佐賀だけらしいんだよね・・・

へえ～??そうなんですか？

この話は、日本経済新聞のネットサイト、NIKKEI NETで連載している「食べ物新日本奇行」をまとめた本「天ぷらにソースをかけますか？」(野瀬泰申著 新潮文庫)に載っている話です。

「食べ物新日本奇行」のURLは、<http://waga.nikkei.co.jp/play/kiko.aspx>

(KBS福島放送「名古屋と福島の共通点は・・・」みんなの食卓(11月18日))。地図を片手に読んでみませんか。

巡検開催のご案内

■ 開港150年の横浜みなとみらい地区巡検(再掲)

平成21年度第3回巡検を12月に開催いたします。今年6月に完成した「象の鼻パーク」やみなとみらい地区の主要施設を歩きます。

ご案内：伊藤 等先生(日本大学)

開催日：平成21年12月5日(土)

定員他：20名前後。参加締切は12月1日(火)。

申込み：電話 03-3262-1486 Fax. 03-3234-0872
mail chizujoho@nifty.com のいずれか

集合：みなとみらい線 元町中華街駅
6番改札外 10:00(予定)

ルート：詳細は現在検討中です(以下は見学予定先)。

①アメリカ山公園(8月オープン)

②大栈橋

③象の鼻パーク(6月オープン)

④赤レンガ倉庫(昼食)

⑤海上保安資料館 横浜館

⑥三菱みなとみらい技術館 など

参加費：1,000円(資料費含)。なお現地までの往復交通費、昼食代は各自ご負担下さい。

地図絡み

第39回 ユングフラウの麓

帝京大学理事 井口悦男

40年近く前の、フランス・スイス小旅行アルバムをたどりユングフラウ・ヨッホに出掛けた折の、今もありありと目に浮かぶ、樹林帯の中の美しい集落と森林限界を越した氷河地形の谷間の牧草地そして背景の雪をいただく岩山の列という車窓風景を、手書図を添えて、アルプス一景を述べてみる。

ベルンから約50km、ラウターブルンネンから先は車は立ち入れない。白濁した氷河の解けた水が勢良く流れる、黒っぽい針葉樹の谷間を上り、車を道端の果物畑の木の空き間の駐車場に突込み、駐車場の男から電車の切符を買う。往復なんと35フラン。発車まで3分と急がされ、そばの駅に駆け込んだが、小型電車の列がいくつも並び、発車する列車が分からない。駅員の指示する前の方に乗り込むとすぐ動き出した。改めて車窓に目をやると、何のことはない。駅に並んでいたれどもが、1列になって一定間隔で後についてきている。江ノ電の続行運転と同じである。こちらは1両ではないので、規模が大きい。

急坂の集落地斜面を、かなりのスピードで上る。美しい美しいマサに絵のような林や草地に、花々でテラスを飾った小ぎれいな木造民家が点々と続く。ホテルの多いウエンゲンを過ぎると、ユングフラウ、メンヒ、アイガーと続く、ベルナーオーバーラントの万年雪をいただく、岩山連峰がU字谷の向こうに一列に、薄雲をまとう絶景



「ユングフラウ」5万分1 1938
 ランデスカルテ・デア・シュヴァイツ

の大展望が一気に広がる。森林限界を抜け、線路脇は低く揃った高山植物が咲き乱れる草地となる。線路に平行するトレイルをハイクする人たちが羨しい。

石灰岩質水成層理が明確なアイガーのひとつの尾根線の降りてきた所が、電車の乗換え地点のクライネシャイデックである。2000mを越し、数軒のホテルが草地に立ち目立つ。

この乗換えは至って便利で、返って一電車待つて景色を賞でたい場所でもある。乗換えたユングフラウへの登山電車は、いま迄以上の急勾配の草地の崖をスイスイと登り、1駅過ぎると、あとは7kmほどトンネルの中

となる。ただし斜面近くに掘られているので、途中駅3つは穴から外界が望める仕組であった。トンネル内の終点からサインにしたがい外に出ると、実にまぶしい。少々フラフラしながらスイス国旗のはためく3475mの展望台へ。太陽の輝きで、ヤッケ不要であった。

(09.11.08)

クライネシャイデック風景(絵葉書)
 背景はアイガー峰 電車はWAB(ウエンゲルンアルプバーン)現在の電車は更新されている。

